

戦略研究と平和学のシナジーをめざして

中西 久枝
名古屋大学

はじめに

グローバリゼーションと二つの危機：9.11 事件と金融危機

1. 現代の紛争・戦争の特徴—戦争の外注化

新自由主義が紛争・戦争のしかたを変えた

外注の特質

① 戦争の私企業化

戦争のアクターの多様化と非国家性

個々のアクターが自らの利益を追求（ボトムアップ型の戦闘）。

＝破綻国家化の進行 → 暴力の水平的、垂直的広がり

国家は私企業に通常軍の支援を任せる傾向へ

② 戦争の国際化・戦争への国際介入レベルの激化

多国籍軍部隊が戦闘の単位→戦争のプロセス、結果：矛盾

国家の意思・私企業の意思と戦争調達能力

→戦争における国家戦略の不在＝戦争での民主的制御の不在

2. 平和維持活動・平和構築支援の現代的特徴

1) ワシントンコンセンサスの原理—介入する側の論理

2) グッド・ガバナンスの強制—介入される側

⇔ 現実：ボトム・アップからの暴力の深遠

3. 平和学の現代的課題

1) 紛争の転換 → 紛争の当事者の利害・心理における「超越」

誰もが「Win-win」になる方法の模索

2) 人権・平和教育 — 米国の国際刑事裁判所への抵抗

普遍的人権論の限界

3) 「平和活動」をNGOに外注化—平和・戦争ビジネスの存在

おわりに：戦略研究と平和学のシナジーをめざして

1) 紛争・戦争地域や紛争・戦争の潜在的な地域で、憎悪と不安の再生産をいかになくすか

2) 「恐怖からの自由」と「欠乏からの自由」（「人間の安全保障」の柱）の不可分性への理解

3) 「安全保障」と「平和」の非対称な関係と言説の是正をどのようにして行うのか